

第7次枕崎市総合振興計画及び 第3期枕崎市地方創生総合戦略の策定について

令和7年10月29日

01	総合振興計画 「序論」	1
02	総合振興計画 「骨子」	9
03	地方創生総合戦略 「骨子」	12

(1) 総合振興計画の構成

総合振興計画の構成は以下のとおりとします。

I 総合振興計画の概要

1. 計画策定の趣旨
2. 計画策定の方針
3. 計画の構成と期間
4. 総合振興計画と地方創生総合戦略の統合

Point !

第7次枕崎市総合振興計画及び第3期枕崎市地方創生総合戦略を一体的に策定することの説明。

II 計画策定の背景

1. 社会の潮流
2. 本市の概況
3. 市民から見た枕崎市
4. 現状と課題の整理

Point !

総合振興計画に「市民目線」を反映するため、市民アンケート、Well-Beingアンケート、市民ワークショップの結果を整理。

III 基本構想

1. 将来像
2. 基本目標
3. 施策の大綱

IV 基本計画

1. 前期基本計画
2. 重点プロジェクト

▼【参考】第6次枕崎市総合振興計画の目次

目 次

策定の趣旨	1
1 総合振興計画策定の意義	1
2 計画の性格と構成・期間	1
基本構想編	3
第1章 計画の基調	3
第2章 将来都市像	4
第3章 施策の大綱	5
1 安全で潤いとやすらぎのあるきれいなまちづくり（生活環境）	6
2 快適で便利なコンパクトなまちづくり（都市基盤）	8
3 人と物が交流し、活力みなぎるまちづくり（産業経済）	10
4 健康ですべての人々にやさしいまちづくり（健康・福祉）	12
5 豊かな人間性と文化を育むまちづくり（教育文化）	15
6 着実な歩みを進める連携と協働のまちづくり（行財政）	17
基本計画編	19
第1章 安全で潤いとやすらぎのあるきれいなまちづくり（生活環境）	19
1-1 世代に合わせた快適な住環境づくりの推進	19
1-2 きれいな水環境の整備	21
1-3 環境にやさしい潤いのある社会の実現	23
1-4 災害に強いまちづくりの推進	27
1-5 市民生活の安心・安全の確保	29
第2章 快適で便利なコンパクトなまちづくり（都市基盤）	32
2-1 社会的責任に基づく計画的な土地利用の推進	32
2-2 求心力のある市街地の形成	34
2-3 交通ネットワークの整備	35
2-4 高度な情報通信機能の整備	37
第3章 人と物が交流し、活力みなぎるまちづくり（産業経済）	39
3-1 地域経済を牽引する水産業・水産加工業の振興	39
3-2 地域に根ざした農林業の振興	44
3-3 豊かな暮らしと地域社会を支える商工業の振興	49
3-4 雇用環境と就業環境の充実	54
3-5 地域の魅力を増幅する観光の振興と地域間交流	56
第4章 健康ですべての人々にやさしいまちづくり（健康・福祉）	59
4-1 生涯を通じた健康づくりの推進	59
4-3 安定的な社会保障制度の継続	64

(2) 計画策定の趣旨

第6次総合振興計画策定から現在に至るまでの流れや、第7次総合振興計画を策定することの必要性、また「市民目線」を重視した計画を策定することについて記載します。

▼「計画策定の趣旨」の記載イメージ

本市では、2016（平成28）年度から2025（令和7）年度の10年間を計画期間として、「活力ある地場産業に支えられ人情味あふれる安らぎと潤いのある枕崎市」を将来都市像とした第6次枕崎市総合振興計画を推進してきました。第6次枕崎市総合振興計画においては、農林水産業と地場産業を市勢牽引のエンジンとしながら、豊かな自然環境のなかで市民が安らぎと潤いのある暮らしを築いていけるよう、世代を越えた協働の仕組みづくりなどに取り組みました。

しかし、人口減少及び少子高齢化の深刻化や、新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式の変化、デジタル技術の発達などに伴い、まちづくりにおける考え方も10年間で大きく変化しました。これらの時代の潮流を踏まえたうえで、本市の現状を的確に捉え、また「市民目線」を重視し、まちづくりの方向とその実現に向けた方策を明らかにするものとして、第7次枕崎市総合振興計画を策定しました。



(3) 計画策定の方針

今回の計画策定において重視する3つの方針を記載します。

▼ 「計画策定の方針」の記載イメージ

「市民を主役とした、市民の幸せを実現するための計画」とします

方針 1

市民をまちづくりの主役と位置づけ、その声や想いを取り入れながら、市民一人ひとりが幸せを実感できるまちを目指した計画を策定します。市民と行政が力を合わせ、共に歩む未来を計画のなかで描きます。

「分野の垣根を越え、多様な主体の連携を促す計画」とします

方針 2

地域社会が直面する多様かつ複雑な課題に対応するためには、多様な主体が互いに連携し、知見やノウハウを共有することが求められます。課題解決の実効性を高めるために、分野や立場を越えて協働を促す計画を策定します。

「時代の潮流を的確に捉え、将来の社会変化を見据えた、柔軟で持続可能な計画」とします

方針 3

時代の潮流や本市の現状・課題を的確に捉えるだけでなく、今後起こり得る社会情勢の変化や本市への影響を具体的にイメージします。変化に柔軟に対応し、持続可能なまちを目指す計画とします。

(4) 計画の構成と期間

総合振興計画の構成と期間を図とともに示します。

▼ 「総合計画の期間と構成」の記載イメージ

■ 基本構想

まちづくりの基本理念と目指すべきまちの将来像を示すとともに、これを実現するための基本方針等を示すものです。

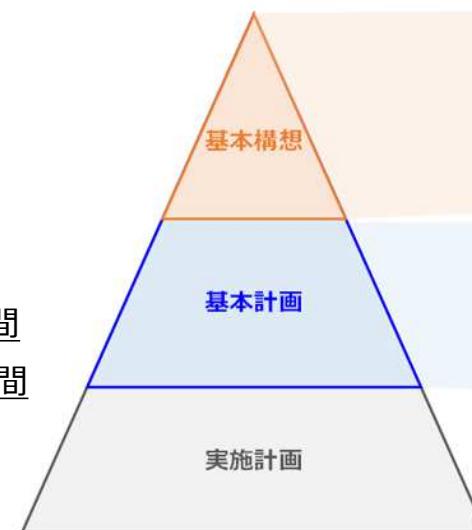
期間：令和8年度から令和17年度の10年間

■ 基本計画

基本構想に基づく市政の基本的な計画であり、基本方針(6つの政策)を達成するための施策の体系(施策と基本事業)を示すものです。

期間：前期計画 令和8年度から令和12年度の5年間

後期計画 令和13年度から令和17年度の5年間



将来都市像

枕崎市が目指す最上位の目標を将来都市像として示します。

基本目標

本市の現状と課題を政策分野ごとに整理し、今後目指すべき方向性を基本目標として示します。

施策

政策分野ごとの基本目標を達成するための取組方針を示します。

取組内容

施策を展開するための具体的な取組を示します。

(5) 総合振興計画と地方創生総合戦略の統合

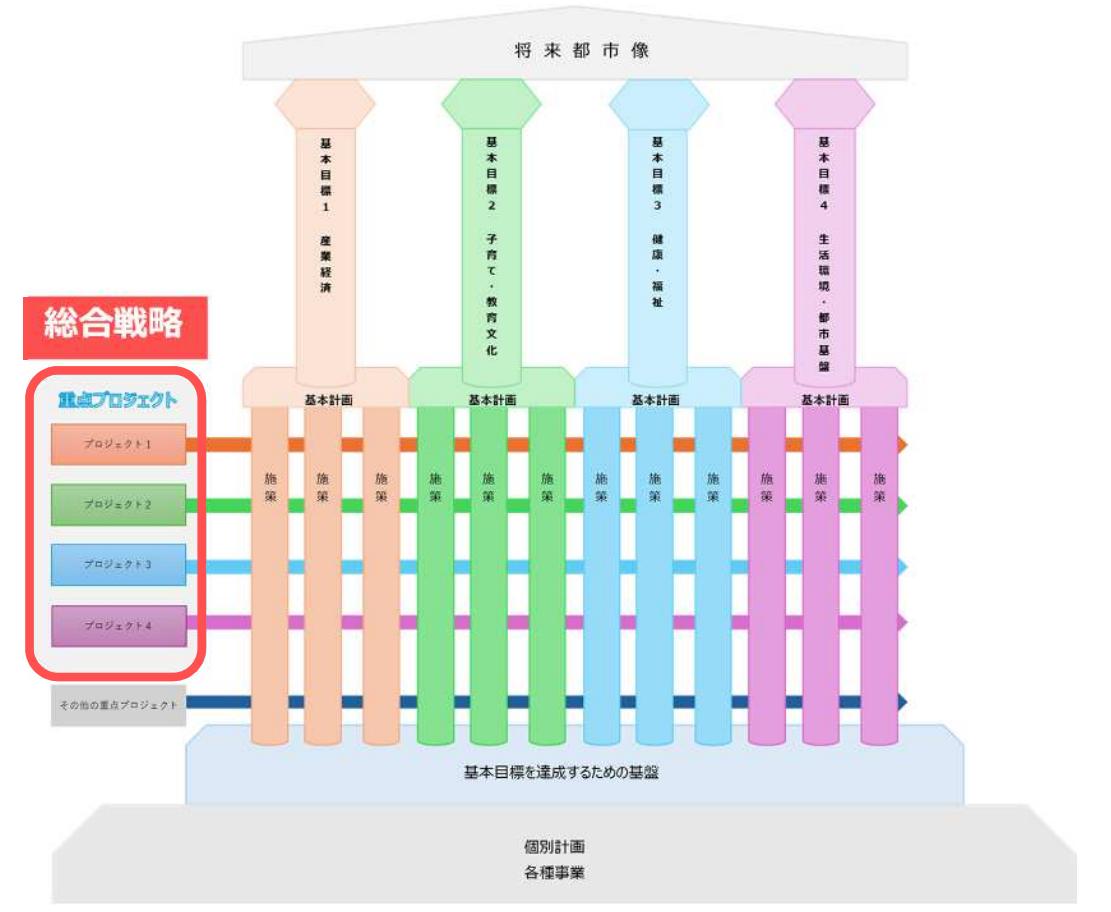
総合振興計画と地方総合戦略を統合することの目的について、イメージ図とともに記載します。

▼ 「総合振興計画と地方創生総合戦略の統合」の記載イメージ

国は「地方創生2.0」を掲げ、人口減少などの現実から目そらすことなく、その目指す姿である、「強く」、「豊か」で「新しい・楽しい」地方・日本の実現に向けて取り組んでいくことを定めました。

本市では、この「地方創生2.0」の考え方に基づく第3期枕崎市地方創生総合戦略を、第7次枕崎市総合振興計画と一体的に策定することとしました。

これにより、総合振興計画と共に共通の目標のもと、総合戦略を総合振興計画の政策分野を横断する重点プロジェクトと位置付け、地域活性化と人口減少対策を効果的に推し進めることとしました。



(6) 社会の潮流

社会の潮流について、「人口」、「産業」、「社会」、「自然」の4つの観点から整理します。

▼「社会の潮流」の記載イメージ

人口

人口減少及び少子高齢化の進行

日本の人口は、2010年ごろから少しずつ減り始めています。新しく子どもが生まれる数は、人口を保つのに必要な数を大きく下回っているため、これからも人口減少は続くと考えられます。人口が減り、働く人が少なくなると、病院や買い物施設、路線バスなど、生活に必要なサービスを続けることが難しくなってきます。

人口が減ることを完全に止めるのは難しいですが、お金やモノなどの「物の豊かさ」だけでなく、「心の豊かさ」にも目を向け、市民が幸せを感じながら暮らせる地域をつくっていくことが大切です。



産業

地域経済を取り巻く環境の変化

世界中の人や物、情報、文化などが日々行き交い、科学技術が急速に進歩するなかで、国や会社、個人に至るまで、物事の考え方方が変わってきています。地域の経済を元気にするためには、日本だけでなく世界全体の変化をしっかりとつかみ、その中で地域の経済をどう作り直していくかを考えることが大切です。

本市でも、農林水産業や水産加工業など、もともとの強みを引き続き生かしながら、これまでとは違う新しい価値を生み出したり、地域の外からお金を得る方法を考えたりすることが必要です。



社会

デジタル技術の発達によるライフスタイルの変化

この10年ほどでデジタル技術は大きく進歩し、スマートフォンやクラウドサービス、生成AI、IoT、ビッグデータといった新しい技術や道具は、人々の生活や仕事に欠かせないものになりました。

デジタル技術は、生活を便利にしたり、仕事を効率よく進めたりするのに役立ちます。その一方で、デジタル技術を使える人と使えない人とのあいだで差が広がったり、地域の人同士のつながりが弱くなったりするという問題もあります。ただ単にデジタル技術を活用するだけでなく、こうした問題にもしっかりと対応することが重要です。



自然

自然災害への危機意識の高まりと環境意識の向上

近年、日本では地震や火山の噴火、線状降水帯による大雨、土砂災害、大型の台風など、さまざまな自然災害が発生しています。このような異常気象の要因の1つとして地球温暖化が挙げられており、日本全体で環境問題への関心が高まっています。

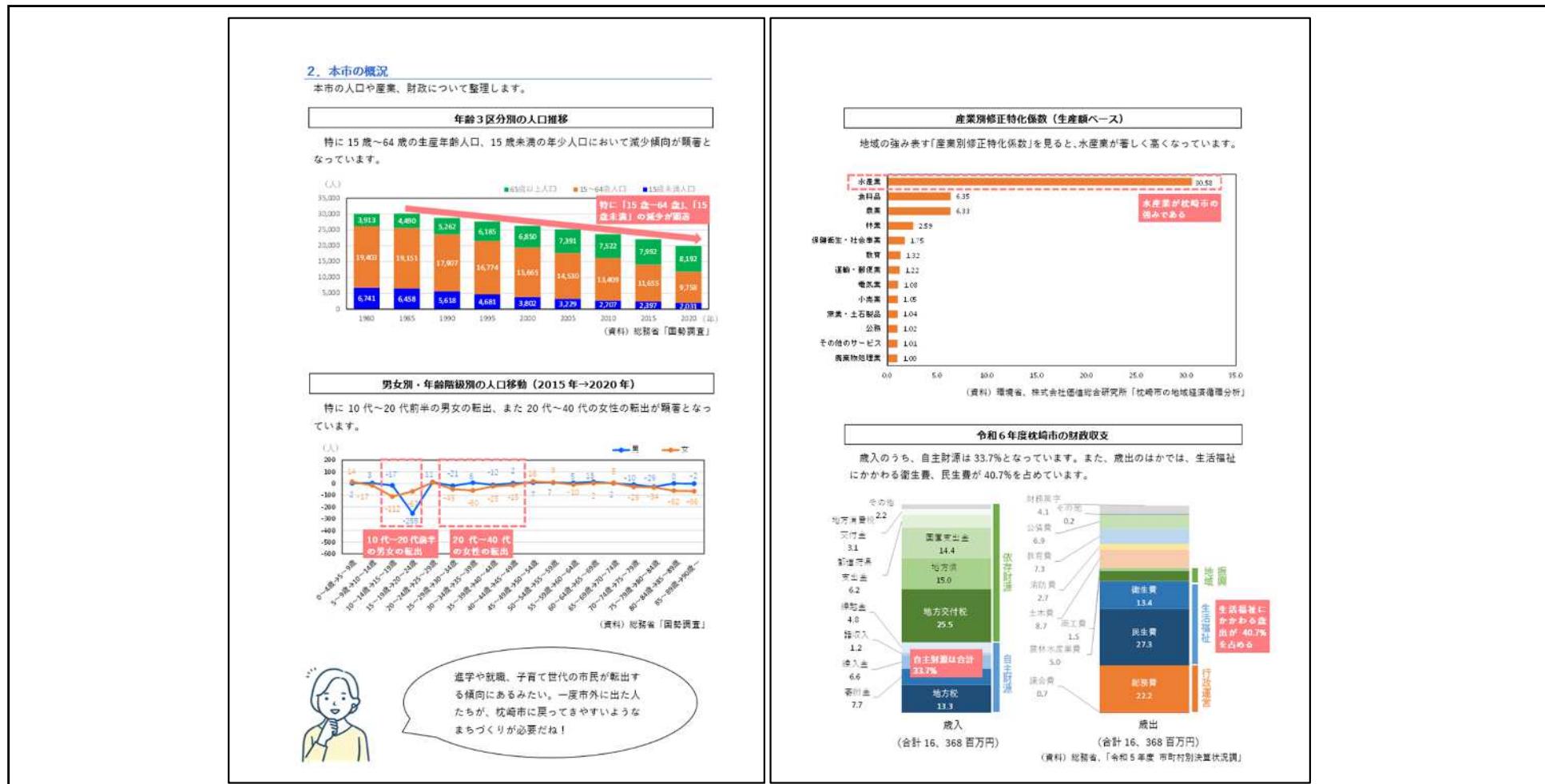
本市でも、令和6年に「ゼロカーボンシティ」を宣言し、市民や企業と力を合わせて温室効果ガスを減らしたり、気候変動の影響にそなえたりする取り組みを進めています。



(7) 本市の概況

本市の概況について、人口や産業、財政の面から整理します。

▼「本市の概況」の記載イメージ



(8) 市民から見た枕崎市

「市民から見た枕崎市」として、市民アンケートやWell-Being指標、市民ワークショップの結果を整理します。

▼ 「市民から見た枕崎市」の記載イメージ

○ 枕崎市に愛着や誇りを感じるのは、どのような「もの」「こと」「場所」ですか？

1位 豊かな自然・景観	61.8%
2位 犯罪や事故などがない治安の良さ	32.8%
3位 豊富な特産物	32.4%

※複数回答

○ 枕崎市はこれからどのようなまちを目指していくべきだと思います？

1位 若者が定着する魅力あるまち	53.3%
2位 保健・福祉サービスが充実し、医療施設も確保された健やかに暮らせるまち	44.6%
3位 活力のある産業に支えられたまち	39.3%

※複数回答

○ 目指すまちづくりの実現のために力を入れる必要があると思う施策は何ですか？

1位 高齢社会を迎えて、福祉・医療・生きがいづくりの対策を充実させる	37.5%
2位 南薩貫道の高速化と、九州自動車道・国道などの連絡道路を改善する	31.1%
3位 水産業、農業及び地場産業(食品工業、特産品)など既存の産業を振興する	30.1%

高齢化に対応しつつ、若者が定着する魅力あるまちを目指したいというのが市民の想いだね！

市民アンケート

(3) 市民ワークショップの結果

市民ワークショップを開催し、枕崎市の現状や課題、目標すべき姿などについて話し合いました。

参加者：生活環境や都市基盤、産業、健康・福祉、教育文化等の分野に携わる市民
開催日：令和7年9月27日、令和7年10月4日
場所：妙見センター2階

ワークショップ①

枕崎市の現状（強み/弱み）と
社会情勢（チャンス/心配事）を掛け合わせて考える

強み×チャンス

- かつお節ブランド × 和食ブーム
→ 海外販路拡大、観光資源化
- 自然環境 × 観光需要
→ アウトドア・体験型観光の展開
- お茶 × 移住や観光の関心
→ お茶文化体験・6次産業化
- 地域のつながり × デジタル技術
→ コミュニティ活動の見える化、発信強化

弱み×心配ごと

- 水産加工業 × 資源減少・気候変動
→ 青資源型・高付加価値商品への転換
- 地域のつながり × 高齢化
→ 高齢者支援ネットワークの強化
- 自然資源 × 災害リスク
→ 防災教育や観光×防災の取組
- 1校区1小1中を活かした小中の連携
×少子化
→ 教育の質向上、児童生徒の学力向上

弱み×チャンス

- 若者流出 × 二世居住のニーズ
→ 若者受け入れ、Uターン施策強化
- 医療・福祉の不足 × デジタル化
→ 遠隔医療
- 交通の不便さ × 観光需要
→ 観光客・住民兼用の公共交通導入
- PR不足 × 外部企業・大学との連携
→ 地域資源を発信する新たな広報・プロジェクト

弱み×心配ごと

- 後継者不足 × 高齢化進行
→ 農業・漁業の共同経営、スマート化
- 商店街衰退 × 物価高騰
→ 地域内流通・地産地消の仕組み
- ごみ処理・施設老朽化 ×
→ 広域連携によるインフラ整備
コスト削減
- 情報発信の弱さ × 行政機関の対応
→ デジタルアーカイブ化

市民ワークショップ

01	総合振興計画 「序論」	1
02	総合振興計画 「骨子」	9
03	地方創生総合戦略 「骨子」	12

(1) 将来像 ※検討中

調査・分析の結果や市民ワークショップ等から得た、枕崎市民の幸福度向上のために重要な「考え方」や「キーワード」を整理し、将来像を作成します。

第6次枕崎市総合振興計画の将来都市像

「活力ある地場産業に支えられ人情味あふれる安らぎと潤いのある枕崎市」



第7次枕崎市総合振興計画の将来都市像

※以下の「考え方」や「キーワード」をもとに検討中

枕崎市民の幸福度向上のために重要な「考え方」	キーワード
・市民の幸福度と相関係数が高い項目は「健康状態」、「自己効力感」、「住宅環境」（Well-Beingアンケートより）	・いきいき ・みんなが主役 ・元気 ・前向き ・はつらつ ・家族
・新しい考え方、価値観を排除せず、取り入れていく文化を醸成する（Well-Beingアンケートより）	・個性 ・多様 ・カラフル ・自分らしさ、あなたしさ ・創造 ・虹 ・オリジナル
・市全体で一体となって、かつ市外からの視点も取り入れながら、新しいことに挑戦する。「まずやってみよう」の精神を重視する。（市民ワークショップより）	・オール枕崎 ・シン・枕崎 ・つながり ・成長 ・チーム枕崎 ・絆 ・ネットワーク ・チャレンジ ・進化 ・挑戦 ・花咲く
・若者が集まる魅力あるまちづくりを進める（市民アンケートより）	・ワクワク ・心を動かす ・感動
※ 市民が枕崎市にふさわしいと感じる言葉をキーワードとして記載（市民アンケートより）	・活力のある ・人情味のある ・豊かな

(2) 基本目標

第7次枕崎市総合振興計画においては、市民にとってより分かりやすく、明確に政策分野ごとのゴールを示すため、基本目標を4つに整理しています。また、これまで基本目標として位置付けられていた行財政等については、「基本目標を達成するための基盤」として位置づけを改めました。

第6次枕崎市総合振興計画の基本目標

安全で潤いとやすらぎのある きれいなまちづくり（生活環境）
快適で便利なコンパクトな まちづくり（都市基盤）
人と物が交流し、活力みなぎる まちづくり（産業経済）
健康ですべての人々に やさしいまちづくり（健康・福祉）
豊かな人間性と文化を 育むまちづくり（教育文化）
着実な歩みを進める連携と 協働のまちづくり（行財政）



第7次枕崎市総合振興計画の基本目標

活気とにぎわいのあるまち (産業経済)
子育て・学びが充実したまち (子育て・教育文化)
健康でいきいきと暮らせるまち (健康・福祉)
安心・安全・快適なまち (生活環境・都市基盤)

+

基本目標を達成するための基盤
(行財政、DX、広域行政、男女共同
参画、共生協働など)

Point !

文言をシンプルに、また明確なゴールとして位置付けるため、語尾を「まちづくり」ではなく「まち」に変更

Point !

「子育て」と「教育文化」を統合し、子育て、幼児教育から高等教育、生涯を通じた学びまでの取組の一体化

Point !

「生活環境」、「都市基盤」の分野を暮らしの基盤として統合

Point !

行財政等が全ての政策分野と密接にかかわることを明確に

(3) 施策

第6次総合振興計画の各施策について、第7次総合振興計画の基本目標に合わせて整理した場合、以下のようになります。なお、第7次総合振興計画における新たな施策については、現在各課と協議中です。

活気とにぎわいのあるまち（産業経済）

- 3-1 地域経済を牽引する水産業・水産加工業の振興
- 3-2 地域に根ざした農林業の振興
- 3-3 豊かな暮らしと地域社会を支える商工業の振興
- 3-4 雇用環境と就業環境の充実
- 3-5 地域の魅力を増幅する観光の振興と地域間交流

子育て・学びが充実したまち（子育て・教育文化）

- 4-4 安心して子どもを生み育てられる環境づくり
- 5-1 人間性豊かな人をつくる学校教育等の推進
- 5-2 豊かな人間性を育む生涯学習の推進
- 5-3 豊かなスポーツライフの実現
- 5-4 伝統と国際性が織りなす多様な文化の振興
- 5-5 多様な国際交流の推進

健康でいきいきと暮らせるまち（健康・福祉）

- 4-1 生涯を通じた健康づくりの推進
- 4-2 質の高い医療サービスの充実
- 4-3 安定的な社会保障制度の継続
- 4-5 誰もが自立した生活ができる福祉の充実
- 4-6 高齢者が安心して生活できる仕組みづくり
- 4-7 地域包括ケアシステム構築に向けた取組

安心・安全・快適なまち(生活環境・都市基盤)

- 1-1 世代に合わせた快適な住環境づくりの推進
- 1-2 きれいな水環境の整備
- 1-3 環境にやさしい潤いのある社会の実現
- 1-4 災害に強いまちづくりの推進
- 1-5 市民生活の安心・安全の確保
- 2-1 社会的責任に基づく計画的な土地利用の推進
- 2-2 求心力のある市街地の形成
- 2-3 道路交通ネットワークの整備

基本目標を達成するための基盤

- 2-4 高度な情報通信機能の整備
- 6-1 協働のまちづくりの実践
- 6-2 質の高い市民サービスの実現
- 6-3 着実で積極的な行財政改革の推進
- 6-4 生活圏の拡大に対応した広域行政の推進

※ 各課との協議後、改めて施策を整理します。

01	総合振興計画 「序論」	1
02	総合振興計画 「骨子」	9
03	地方創生総合戦略 「骨子」	12

(1) 地方創生2.0における政策の5本柱

政府が掲げる「地方創生 2.0」において、「政策の5本柱」が以下のとおり定められており、地方はこれらの考え方を踏まえながら地方版総合戦略を見直し、地方創生2.0を推進する取組に着手することとなっています。

① 安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生

誰もが安心して暮らせる地域を実現するため、若者や女性に選ばれる働き方・職場づくりや意識改革を進める。加えて、人口減少を見据えた生活サービスや地域拠点の維持、官民連携による魅力あるまちづくり、防災力の強化を推進する。

② 稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生 ~地方イノベーション創生構想~

地域の資源を活かし、多様な「新結合」により地方経済を活性化する「地方イノベーション創生構想」を推進する。高付加価値化や人材の流動、AI等の新技術の導入を通じて、地方の稼ぐ力を高め、需要減少に対応しながら持続的な成長を目指す。

③ 人や企業の地方分散 ~産官学の地方移転、都市と地方の交流等による創生~

東京一極集中の是正に向けて、政府機関や企業・大学の地方移転、地方大学の強化、都市と地方の人材交流を進める。地方の過疎化を抑えつつ、都市部の過密の弊害にも対応し、人や企業の地方分散によって持続可能な国全体の発展を目指す。

④ 新時代のインフラ整備とA I・デジタルなどの新技術の徹底活用

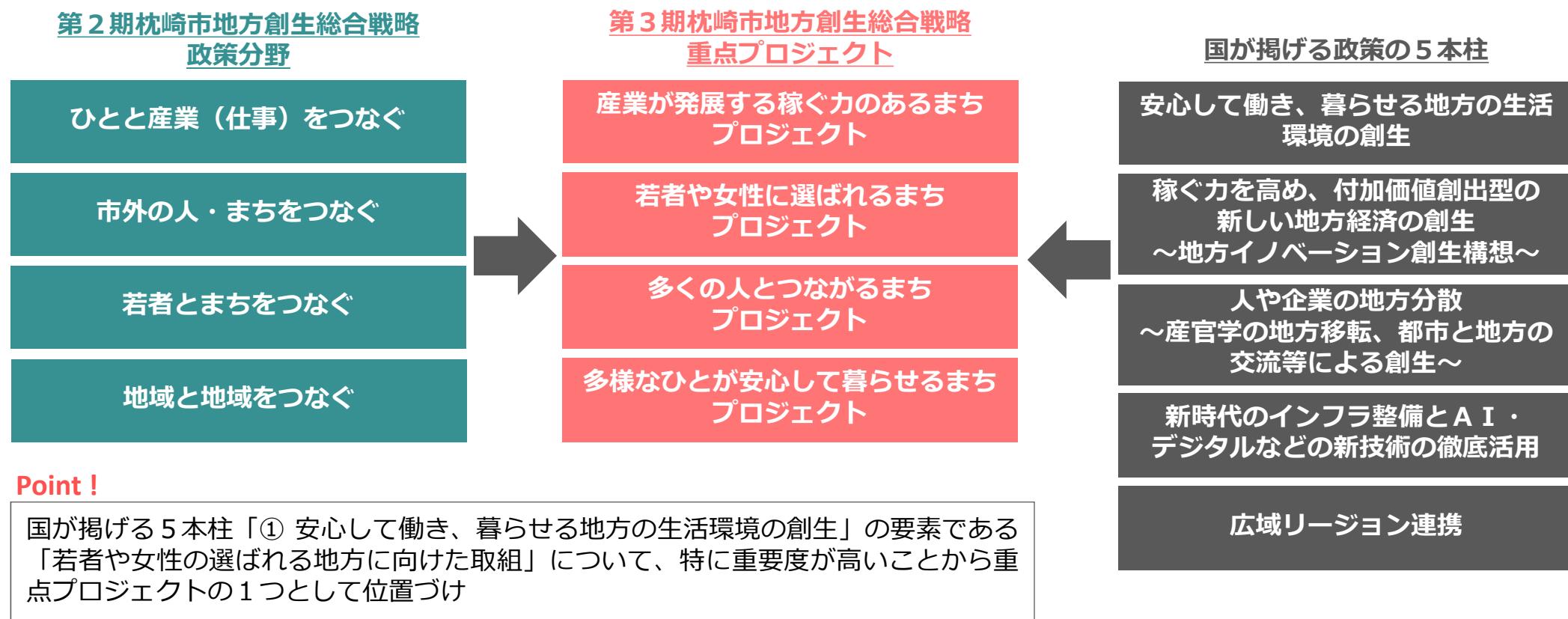
GX・DXの進展に対応し、地域の生活環境改善と新産業の創出を図るため、インフラ整備や技術活用を面的に展開する。AIやドローンなど最先端技術を活かし、誰もが豊かに暮らせるSociety5.0の実現と地方創生の加速を目指す。

⑤ 広域リージョン連携

地域経済の成長を図るため、自治体と企業・大学など多様な主体が連携する「広域リージョン連携」を推進する。圏域を超えたプロジェクトが展開できる枠組みを整備し、省庁横断で産業・観光・インフラなどの政策を効果的に進めていく。

(2) 重点プロジェクトの設定

第3期枕崎市地方創生総合戦略は、現行の第2期枕崎市地方創生総合戦略の4つの政策分野の方向性を引継ぎつつ、国が示す「地方創生2.0」の政策の5本柱を踏まえ、本市の課題解決や活性化を目指し、総合振興計画の4つの「重点プロジェクト」として位置づけました。



(3) 重点プロジェクトの詳細

重点プロジェクトの内容と、プロジェクトの背景にある現状や課題を整理します。

① 産業が発展する稼ぐ力のあるまちプロジェクト

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| ○基幹産業の持続可能な経営基盤の確立により安定した雇用を創出 | ○若者、女性、高齢者など多様な主体が活躍できる就業環境を創出 |
| ○地場産業の更なる飛躍に向けた支援 | ○地域資源やサービスの高付加価値化 |
| ○企業誘致の推進と地元企業の支援 | ○地場産品の海外展開の強化 |
| ○新たな産業の創出、地産地消の推進などによる地域経済の循環 | ○施策・人材・技術の新結合を推進 |

・企業誘致や雇用創出、働く場の充実を求める意見が多く挙がっている。

背景にある 現状と課題

- ・働く場の充実度が人口の社会増減の要因の1つとなっている。
- ・嗜好の多様化やデジタル化の加速等により、消費者の価値観が変化している。
- ・多くの業種で人材確保、後継者不足が課題となっている。

② 若者や女性に選ばれるまちプロジェクト

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| ○若者や女性にも選ばれるための社会変革・意識改革 | ○学生を含む若者の雇用の促進 |
| ○若者や女性が魅力を感じる働き方・職場づくり、人づくりの推進 | ○社会で活躍する人材育成機能の強化 |
| ○結婚・妊娠・出産・子育て支援への切れ目のない支援 | ○若者や女性が暮らしやすく、楽しめるまちづくりの推進 |
| ○質の高い優れた教育機会の充実 | |

・子育て世代の女性の転出が多くなっている。

背景にある 現状と課題

- ・Well-Beingアンケートにおいて、「多様性と寛容性」の満足度が低くなっている。
- ・若者が定着する魅力あるまちづくりを求める声が多く挙がっている。
- ・本市の合計特殊出生率は県内自治体のなかで低い水準となっている。

③多くの人とつながるまちプロジェクト

- | | |
|---------------------------------|-------------------|
| ○交流人口・関係人口の創出により、枕崎への新たな人の流れを創出 | ○枕崎の魅力発信による認知度の向上 |
| ○移住・定住希望者に対するサポートの充実 | ○インバウンド需要の取り込みの強化 |
| ○体験型・滞在型観光の充実 | ○広域連携による流入人口の創出 |

背景にある
現状と課題

- ・ふるさと住民登録制度が創設されるなど、移住・定住だけでなく関係人口創出の重要性が増している。
- ・食や自然など、本市のポテンシャルに期待する意見が多く挙がっている。
- ・嗜好の多様化やデジタル化の加速等により、消費者の価値観が変化している。

④多様なひとが安心して暮らせるまちプロジェクト

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| ○様々な世代が一体となって自主的に地域を支えるまちづくりを推進 | ○災害から暮らしを守るための防災力強化 |
| ○世代や性別などに関わりなく自分らしく活躍できる地域を創出 | ○「民」の力を活かした官民連携の推進 |
| ○多様な主体が安心して生活できるまちづくりを推進 | ○新時代のインフラ整備とAI・デジタルなどの新技術の活用 |
| ○将来を見据えた地域の拠点づくりや生活必需サービスの維持・確保 | ○環境に配慮されたまちを創出 |

背景にある
現状と課題

- ・地域コミュニティの希薄化が進んでおり、特に若い世代で地域活動への関心が弱くなっている。
- ・本市では「自己効力感」や「住宅環境」が「幸福度」と強く相関している。
- ・令和6年度、ゼロカーボンシティ宣言」を発表している。
- ・多くの市民が本市の「豊な自然・景観」に愛着や誇りを感じている。